

有名な「鉄道唱歌」の作詞者は、速筆多作の超人的作家

お お わ だ た け き

大和田建樹

文学者

一八五七年（安政四年）
一八五七年（安政四年）
一九一〇年（明治四三年）



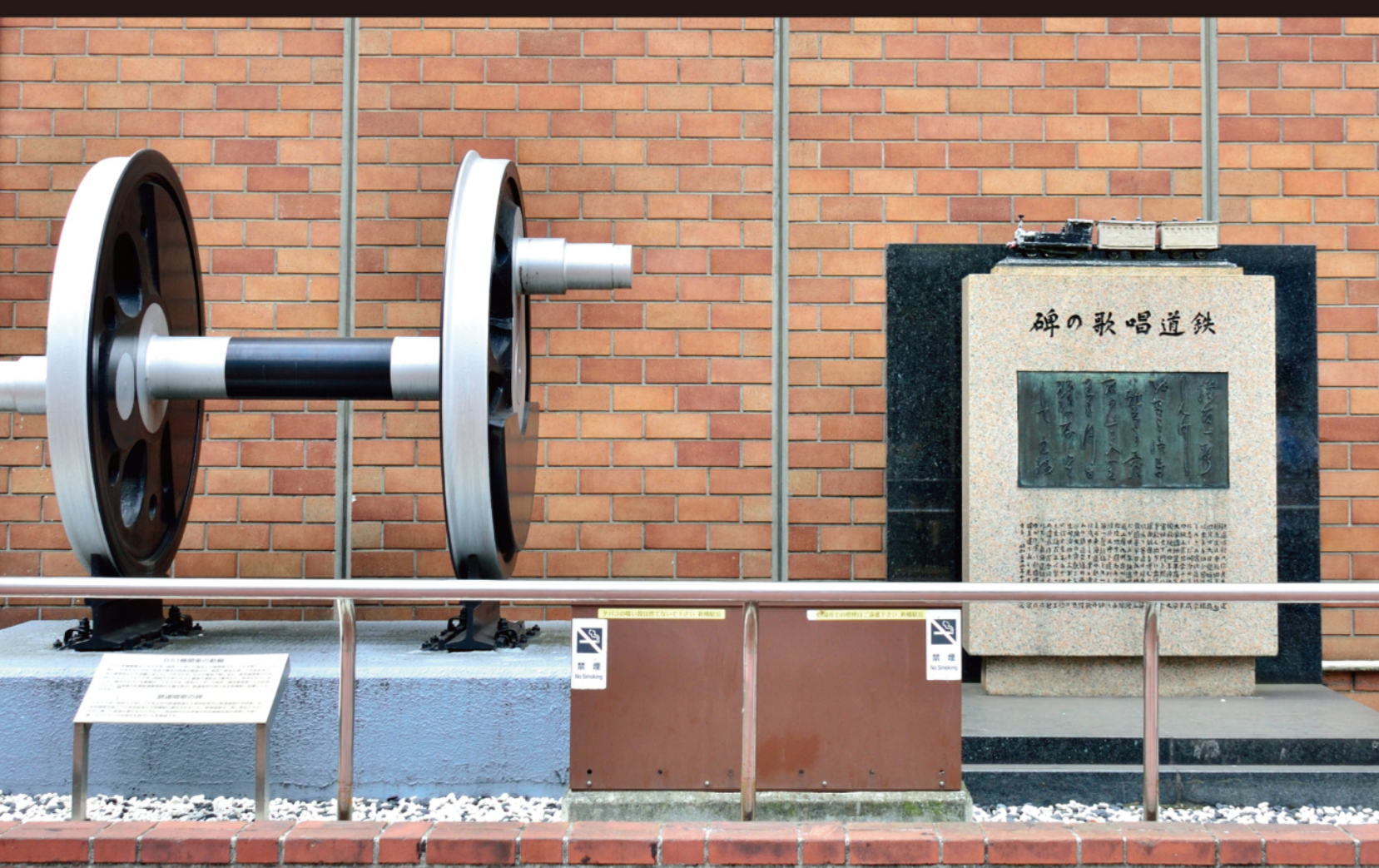
大和田建樹の著作の数々

大和田建樹は、安政4年（1857）宇和島藩士・大和田水雲の長男として生まれ、幼い頃から秀才で知られた。上京後は苦学しながらさまざまな知識を培い、明治19年（1886）高等師範学校の教授になった。

このころ文芸雑誌が盛んに創刊され、作家たちが台頭し始めていたため、建樹は教師を続けるか文筆で立つか迷っていたが、同郷の穂積陳重から励まされて文壇に踏み出し、やがて売れっ子作家になった。

建樹が円熟期を迎えていた明治31年（1898）、貧乏書生時代に仕事をくれた男が作詞を頼みにきた。この当時、月琴に合わせて可憐な娘が歌を歌い、そのあと巧みな口上で群衆に歌本を売る商売があり、それに目を付けた男が鉄道の旅をテーマにした唱歌を思いついたのだった。旅行好きの建樹は東京から九州まで一巡し、歌に読みこむ地理・歴史・名所旧跡・風俗・物産などを取材して「鉄道唱歌」の歌稿を書き上げた。鉄道の旅の楽しさを感じさせる七五調の歌は民衆の心をつかんで大ベストセラーになり、大正初期までに2000万部を売った。

彼の名は、とかく「鉄道唱歌」の作詞者としてしか上ってこないが、建樹の才能はすさまじいばかりに花開き、国文学、和歌、詩作、謡曲、教育の各部門に驚嘆すべき数の著作を残した。



東京新橋駅にある「鉄道唱歌の碑」

汽笛一声新橋を
はや我が汽車は離れたり
愛宕の山に入りのこる
月を旅路の友として

建樹



大和田建樹